

## 【泉区】令和6年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和6年6月11日 午後3時55分 ～ 午後5時20分
場 所	泉区総合庁舎4階4ABC会議室
出席者	<p>【座長】 麓 理恵 議員</p> <p>【議員：2人】 梶村 充 議員、横山 勇太郎 議員</p> <p>【泉区：30人】 山口 区長</p> <p>金子 副区長</p> <p>羽田 福祉保健センター長</p> <p>柿沼 福祉保健センター担当部長</p> <p>斎藤 泉土木事務所長</p> <p>阿部 泉消防署長</p> <p>ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和6年度泉区運営方針について</p> <p>2 令和6年度泉区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 泉区内における主な局事業等の進捗について</p>

発言の 要 旨	<p><b>1 令和6年度泉区運営方針について</b></p> <p>梶村議員：「信頼される区役所づくり」について伺いたい。この取組について、区民の方々に認知してもらうためにどのようなことを行っているのか。</p> <p>室町区政推進課長：「泉区運営方針」については、広報よこはま6月号に掲載しているが、紙面の関係上、主な施策のご紹介にとどまっている。ホームページには、運営方針をすべて掲載しているため、広報よこはまにも、そのホームページにつながる2次元コードを掲載した。また、5月の区連会でも情報提供し、自治会町内会長あてにも資料を送付している。</p> <p>「信頼される区役所づくり」は、日頃の窓口対応等の中で各課が意識して取り組んでいくことで、区民の皆様に伝えていきたい。</p> <p>梶村議員：是非よろしくお願ひしたい。各課の細かい担当業務は区民には分かりづらい。日頃、地域活動等で付き合いがある課などがあれば、相</p>
------------	---

談事などはその課にすと思う。例えば、自治会町内会の方だったら、地域振興課に相談すと思うので、その際に相談事の担当課を的確に案内できるように、課同士の横の連携をしっかりとってもらいたい。

## 2 令和6年度泉区個性ある区づくり推進費の執行計画について

梶村議員：「ゆめが丘ソラトス」が7月25日にオープンということで、相当の反響が出てくると思う。それは良い事で、行ってみたいと思っている。区全体の話となるが、例えば、緑園都市周辺などは、食事をする場所が少なくなってきたようなのだ。ゆめが丘地区の開発が進んでも、他の地域で飲食店が少なくなるという状況では、厳しいのではないか。区として何か聞いているか。

山口区長：ご指摘の件は、緑園連合の会長から課題として聞いており、区としても認識している。建築局住宅再生課が相鉄沿線に取り組んでいるプロジェクトがあり、ゆめが丘地区も対象になると聞いているが、緑園都市などで店舗が減少している状況を踏まえ、ゆめが丘地区以外の地区も含めて取り組むようお願いしている。引き続き、局と連携しながら、できることがないか検討していく。また、緑園西小の跡利用の公募も始まるので、地域に良い影響をあたえる起爆剤になればと考えている。

梶村議員：緑園都市の商店会からも、加入店舗が減ったと聞いている。泉区全体として住みやすい、住み続けたい地域となるように取り組んでほしい。

また、地区連合自治会町内会に加入していない単位自治会町内会は今どれくらいあるのか。

田中地域振興課長：152団体中、10団体が地区連合自治会町内会に加入していない。

梶村議員：区としても地区連合自治会町内会に加入していない単位自治会町内会が多いと地域とのやり取りが大変だと思うが、単位自治会町内会からの要望だと通りにくいと聞いたことがある。地区連合自治会町内会から要望しないと対応できないということがあるのか。

田中地域振興課長：単位自治会町内会への基本的な支援としては、補助金やホームページ作成支援などがある。一部の補助金で地区連合自治会町内会のみを対象としたものもあるが、基本的には、区分けせずに支援している。

梶村議員：事情があつて地区連合自治会町内会から抜けているのだと思うので、できるだけ支援等に区別のないようお願いしたい。

横山議員：9ページの「新たな担い手の発掘」について。拡充事業ということは、区としても問題意識があるということだと思う。コロナの5類移行後1年が経過し、地域活動が以前の状態に戻り始めている中、担い手不足という問題がより顕著になってきたと感じている。そのような課題感もあるので、この事業についての実績や今後の見通しなどについて教えてもらいたい。

岩井福祉保健課長：小中学生を対象とした「泉わくわく応援隊」は、昨年度、3地区をモデルに開始した。地域活動にただ参加するのではなく、活動内容を理解するために何らかの役割を持って参加してもらい、自分たちの地域に愛着を持ってもらうことを目的としている。そういった経験により、将来的に地域の担い手を増やすことにつなげていけるのではないかと考えている。

今年度は、区内の全地区に展開する。ポイント制により、参加回数に応じ景品を渡すことで、より多くの子どもたちに参加してもらいたいと考えている。小中学校には、校長会を通じて依頼している。

今年5月には、昨年度のモデル地区でもある下和泉地区で、中学生16人が下和泉地域ケアプラザまつりの受付などを行った。地域の方から打診があり、泉が丘中学校から主にボランティア委員会の生徒が参加してくれた。

横山議員：事業説明文の最初に「小中学生の頃から」とあるので、小さい頃から地域活動に携わってもらい、将来的に担い手に育ててほしい、ということがねらいか。

岩井福祉保健課長：もう1つのねらいとして、小中学生が地域のイベントに参加する際に、一緒に来る保護者の方々にも、地域活動を理解してもらい、担い手につながっていくことを期待している。

横山議員：着眼点は非常に良いと思う。子どもたちが地域に出てくると、大人もついてくる。事業の将来性に期待している。

資料29ページ(3)の「緊急時の支援」について。これは、緊急時の支援に特化し9万円を計上しているのか。一人暮らしの高齢者等が多い中、5年後、10年後には非常に需要が高まり、専門の事業が立ちあがっていくような重要な分野になってくるのではないかと考えている。

石田高齢・障害支援課長：こちらの事業の予算では、高齢者が虐待等によ

り緊急に入院したり、施設に入所したりする必要がある場合の日用品の確保や、その際の移送等に係る費用を計上している。現状では、側面的な支援を行うための予算となっている。

横山議員：認知症については、非常に危惧している課題なので、力を入れて取り組んでもらいたい。

最後に、35 ページ(3)の「不登校・ひきこもり事業者活動支援事業」について。今年4月にハートフル西部がオープンし、一般社団法人の「かけはし」が運営されているが、状況はどうか。

谷こども家庭支援課学校連携・こども担当課長：ハートフル西部は現在、定員50人に達している。先日、午後の時間に訪問した際は、集中タイムという時間帯で、児童生徒たちはそれぞれ机に向かっていた。毎日通う児童生徒だけでなく、週2、3日や、午前中のみ等、さまざまな利用形態がある。2階には個別対応のための部屋も準備されている。児童生徒たちは、自分でその日何をするか決め、取り組んでいるということだった。

横山議員：不登校児童・生徒については、私も議会で何度も取り上げているが、横浜市では、コロナ前と比較すると1.8倍程度増え、今は約8千人程度が不登校ということだ。30日間学校を欠席している児童生徒が不登校という認定になるので、病気等による場合も含まれている可能性があるが、今後も増加するようならとても不安に感じる。非常に難しい問題だと思うが、引き続き力を入れて取り組んでもらいたい。

梶村議員：区の業務に直接関係はないが、最近、保護司が被害に遭う事件があり心配している。泉区内にも保護司の方はたくさんいるので、警察ともよく連携をとってほしい。

麓議員：ゆめが丘について伺う。1点目は、交通安全の面をどう考えているか。開業の時期が夏休みと重なり、かなりの混雑が予想されるので、交通安全について心配している。

もう1点は、梶村議員からの質問にもあったが、映画を観て食事をするだけの場所にならないようにしたい。そのための取組がスタンプラリーということだと思う。今回、ゆめが丘地区が開発されたが、その周辺には畑が広がり、少し先には旧深谷通信施設や天王森泉公園があるなど、開発と地元の雰囲気アンバランスなところがある。そのアンバランスさも含め、自然の豊かさと開発エリアとをマッチさせた、将来につながるまちづくりが求められていると思う。これからゆめが丘地区

に新しい住宅がたくさん建っていく中で、若い世代が活動できる場所としてのあり方も考える必要がある。駅を中心に人が集まる部分と、外に広がっていく部分と、さらには相鉄沿線の開発なども合わせて、長い視点で考えていく必要があるのではと思っている。

丸山泉土木事務所副所長：交通安全の考え方についてお答えする。区としても、「ゆめが丘ソラトス」が7月にオープン後、人と車の流れが劇的に変わることについて、期待しているとともに心配している。都市整備局からは、今年度ソラトス開業後に交通量調査を実施すると聞いている。また、数年後にマンションが建つが、中和田小の学区となり、通学には幹線道路沿いを長距離歩かなければならない。そのため、今から警察や小学校、地域の方々と、必要な対策について対話を始めている。通学路は確定していないが、教育委員会事務局等の意見も聞きながら、道路管理者として必要な対策を適切に行っていきたいと考えている。警察との話し合いの中では、津村道路の接続部に事故の危険性があると認識している。すぐに信号を設置するのは難しいとのことだが、交通に関するさまざまなデータも収集しながら、関係者で連携して交通安全に努めていく。

室町区政推進課長：スタンプラリーについては、「ゆめが丘ソラトス」に多くの来場者が来ることを好機と捉えており、買い物をして帰るだけでなく、泉区の中をもっと巡っていただきたいという趣旨で実施する。詳細は3ページのコラム①でも記載しているとおり、区内商店会とも連携し、ラリーポイントとしてもご協力いただく。また、区の魅力の1つが「農」であるので、区内各所の地産地消サポート店にもお声かけし、泉区の農について広く知っていただく機会にしたい。天王森泉公園のお話もあったが、そこもラリーポイントとして、より多くの泉区の魅力をPRしていきたいと考えている。

ご指摘いただいたとおり、泉区は開発されたゆめが丘地区の周辺に市街化調整区域が広がる地域なので、その魅力を最大限に伝えていきたい。今年度はまずスタンプラリーという形で実施するが、一過性の盛り上がりで終わることのないように、来年度以降も引き続き、さまざまな取組を実施していく。

麓議員：スクールゾーン対策協議会にて、今年度も各学校からたくさんの要望が出てくると思う。昨年度の要望の中で、改善された件数、取り組み中の件数を教えてほしい。

田中地域振興課長：昨年度は、14校の対策協議会から合計200件弱の要望をいただいている。まず、要望どおり、あるいは代替措置で対応したものは72件。今年度以降対応とさせていただいたものは74件。対応を見送ったものが50件となっている。今年度も7月末まで要望を受け付けている。

麓議員：頑張って対応していただいていることは分かった。過去に私が伺ったことがある取組として、保護者と子どもたちが、通学路の危険な箇所、近隣住宅の敷地に、注意喚起の看板を立てさせていただいたケースがあった。それが子どもたちの安全意識にもつながったということだった。行政で対応しなければならないハード面はしっかりお願いしたいと思うが、地域にやっていただけるソフト面での対策も考えていただければと思っている。

次に、防災について伺いたい。緑園学園地域防災拠点について、この地域は高層住宅も多く、お住いの方も多いが、対象となっている人数はどれくらいか。

釜谷総務課長：緑園学園地域防災拠点に該当する自治会・町内会は、泉区池の谷と緑園一丁目から七丁目、さらに戸塚区名瀬町の一部となっている。戸塚区名瀬町で対象となっているエリアの人口の情報が手元にないが、泉区池の谷と緑園一丁目から七丁目までの人口は、約1万3,700人となっている。

麓議員：他の拠点と比べると、対象者数は特に多いのか。

釜谷総務課長：地域防災拠点ごとに対象エリアの人口と避難者想定数はさまざまであり、一概に比較はできないが、ご指摘のとおり、令和4年に緑園学園の開校にあわせて、地域防災拠点も、緑園東小学校と緑園西小学校、2つの地域防災拠点が緑園学園地域防災拠点に統合しているため、1つの拠点がカバーするエリアは広くなり、避難者想定数も増えている。この区割りの変更にあたっては、当時、地域防災拠点運営委員会の皆様とご一緒に検討を進めており、緑園学園の有効面積は緑園東小学校よりも大きくなることなどから、2拠点分を合わせても、避難者の受け入れは可能であろうと想定している。

麓議員：避難者数を想定しているわけだが、実災害時は、想定外のことが起こるといってもよく言われているので、想定している避難者数を各地域防災拠点で本当にカバーできるのかどうかということを考えていただきたいと思う。

釜谷総務課長：能登半島地震の状況も踏まえ、地域防災拠点のあり方・運営については、これまで以上に実災害を想定したものにすべきと考えている。なお、緑園学園地域防災拠点で避難者があふれた場合は、近隣の地域防災拠点間で調整を行うとともに、補足的避難場所を開設し受け入れることを想定している。緑園学園地域防災拠点の近隣では、横浜緑園高校が補足的避難場所になっている。

麓議員：能登半島地震の状況を伺う中で課題だと思ったのは、在宅避難されている方々への物資の支援について。在宅避難されている方が地域の避難所に物資を取りに行った際、配付を断られてしまったため、二度とその避難所に足を運べなくなってしまったという状況もあったようだ。その結果、在宅避難者用の物資の提供場所が設けられたという話も伺った。泉区地震マップによると、区内で震度6強が想定される地域はそこまで多くないので、場合によっては在宅避難できる方が多いのではないかと思う。在宅避難者への支援についても検討いただき、備えてもらえればと思う。

もう1点、保育園での一時預かりについて伺いたい。「おやこ More Smile Package」の取組の1つとして、保育園での一時預かりがある。先日、西区にある保育園で話を聞いたところ、2名の一時預かりを受け入れようと思うが、他園の受け入れが少ないので、多数の申込みが予想されるとのことだった。そうなった場合、障害をお持ちだったり、保育士の手をかなり必要とするお子さんはお断りせざるを得ないが、それを見極めるために保護者とお子さんとの面談をした上で預かりを決めなければならないという話を聞いた。これはとてもハードルが高く、場合によっては保護者がおあずかり券を使わずに終わってしまうこともあるのではないか。これは大きな課題であると捉えている。今、泉区での一時預かりができる枠はどれくらいあるのか。

谷こども家庭支援課学校連携・こども担当課長：泉区内では現在、17園で一時預かりを受け入れている。受入時間や受入年齢は園によって異なる。そのうち3園は、在園児に欠席があった場合や、定員に空きがある期間だけ受け入れている。

麓議員：受け入れ可能人数は、通常利用の人数により変動してしまうこともあり、実際の受け入れ可能人数を地域に知らせる方法も考える必要がある。ぜひ取組を進めてほしい。

### 3 その他

#### (1) 泉区内における主な局事業等の進捗について

横山議員：区内小中学校の空調設置の進捗具合は分かるか。

谷こども家庭支援課学校連携・こども担当課長：手元に情報がない。

横山議員：泉スポーツセンターの空調は、工事期間中は使用できないのか。

田中地域振興課長：工事は令和7年度以降のため、まだ具体的な内容は申し上げられないが、工事の間、確実に何らかの制約は発生することが予想される。

横山議員：戸塚スポーツセンターは工事が終わったが、工事期間中は空調が使えず大変だったと聞いた。数年後に泉スポーツセンターも同じ状況になると思うと、心構えをしておかなくてはいけない。実際どのくらいの期間空調が使えないのかを周知し、また、空調の代替手段があるのか、考えておいていただきたい。

梶村議員：宮沢第306号線は何年も前から事業を進めているが、現在、どのような状況なのか。

丸山泉土木事務所副所長：現在、沿道の地権者と交渉中で、一部、計画区域が建物にかかる箇所もあり、その補償条件の確認等を行っている。

麓議員：「緑園学園学区交通安全対策事業」について、赤で示されているのは学校の場所のみだが、学区全体を対象としているということで良いか。

丸山泉土木事務所副所長：学区全体を対象としている。この資料上では、紙面の関係で学校の場所のみを示したが、実際はかなり広いエリアとなる。戸塚区の地域も一部含まれているため、戸塚土木事務所とも連携しながら実施することとしている。

梶村議員：道路関連でもう1点。国が、いわゆる「生活道路の30キロ規制」を進めようとしている。区内でも緑園の一部などはすでに規制がかかっているが、今後、新たに規制をかけるのは大変だろうと思う。警察としっかり連携して対策してほしい。

### 4 その他

特になし。